
偽りの絵〔改〕

ブータローの相棒

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

偽りの絵〔改〕

【Nコード】

N4262C

【作者名】

ブータローの相棒

【あらすじ】

偽りの絵についての詩です。作者さまには許可得ています

絵——それは芸術

どんなに巧みな絵画でも思いは稚拙な絵画の方が込められている事が多い。

なにげない自分の似顔絵

たったそれだけの絵でも伝えるべき”何か”が必ずこもっている

彼女は、絵を書いた。

絵を書いた理由

——それは特にない。

ひまになったから絵を書いてみた。
何気なく絵を書いてみたくなった。

衝動的に書いた絵
「――それは、似顔絵」

上手く素晴らしく書こうと自分の人物像とは全く違う絵画を書く。
自分のあこがれの人物像を自分として描くいつわりに目覚めた彼女
がいる。

自分の顔の絵を美形に描く。

――しかしその美形なる顔は本当の自分の顔ではない。

でも、作品的に輝いているとは言えない。
何か上手いとか下手の問題ではなく
作品の質が落ちている。
この絵画を見てそう感じた。

やはり自分の人物像を偽ったからなのだろうか？
それは、”本当の自分”を見失ったからだろうか・・・？

今の自分を受け入れることが出来ない自分がいたから自分の人物像を偽ってしまった。

――自分さえも見失っている。

本当の自分を受け入れることが出来ない最もおそろしい自分がいたことに苦々しく思う。

でも、ありのままの素顔を書けない。

そう、このまま自分の人物像を偽ったまま
本当の自分はどこに消えたのだろうか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4262c/>

偽りの絵〔改〕

2010年11月26日06時36分発行